

地震発生！ そのとき何が 起こるのか



もし、札幌に震度7の大地震が起きた場合、負傷者は最大で34,395人と想定されています。しかし、札幌にある救急車は40台。広い範囲で同時に多数の負傷者が発生した場合、そのすべてに対応することは困難です。そこで、今回の特集では、災害が起きたときの状況を具体的に想像しながら、自らの身を守るための対策について考えていきます。

この特集のお問い合わせは、危機管理対策課 ☎211-3062



(写真提供：阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター)

札幌の 被害想定

震度7の地震が厳冬期に起きたとき 阪神・淡路大震災を超える死者が発生する可能性も

平成7年に戦後最大の被害をもたらした「阪神・淡路大震災」は、大都市直下の活断層が動いたことが原因でした。札幌市でも、市内の直下に3つの隠れた断層の存在が想定されており、地震による被害が最も大きくなった場合、凍死者も含め、8,000人を超える死者の発生が想定されています。これは「阪神・淡路大震災」の死者数を上回ります。

被害を比較！

	札幌の被害想定 (冬季の最大被害)	阪神・淡路大震災
建物全壊・半壊	112,461棟	249,180棟
建物焼失	1,405棟	7,036棟
死者	8,234人※	6,434人
負傷者	34,395人	43,792人
避難場所への避難者	110,666人 (夏季：135,928人)	316,678人

(参考) 平成6年10月1日現在の神戸市の人口:1,518,982人 世帯数:578,634

※ 「厳冬期に被災者が2時間以内に救出されない場合、凍死する」と仮定したときの最大死者数。このうち凍死者数が6,184人と想定

